

# 人権 つうしん

誇りです 差別のないまち わが職場

(同和教育つうしん第9号より)

通算36号 平成21年(2009年)2月25日

発行 長野県教育委員会教学指導課心の支援室  
発行人 町田 暁世

長野市大字南長野字幅下692-2

電話 026-235-7450

FAX 026-235-7495

Eメール [kokoro@pref.nagano.jp](mailto:kokoro@pref.nagano.jp)

企業・各種組織・団体・学校等での学習にご活用ください

## 「人権尊重の視点」でまわりを見てみると・・・



「人権かるた」  
を使った取り組み

見えてきました・・・

上の写真は「人権かるた」の入選作品から掲載しました。

この「人権かるた」は、文部科学省の委託を受けた\*「人権教育推進のための調査研究委員会」が、平成20年夏に長野県中中信地区を中心に作品募集をし、応募総数2,512点の中から、10月に選考の結果、46点を選出して作成したものです。このかるたの言葉を募集することを通して、身近な人権問題に気づき、自らの行動を通して、周りの人と温かな人間関係をつくってほしいという願いがあります。今後、完成した「人権かるた」を使っての「かるた会」を開催し、多くの方に「人権」を身近に感じてほしいと活動を進めていきます。

\*人権教育推進のための調査研究委員会（H20年度委員会構成...信州高遠青少年自然の家・松本教育事務所・伊那教育事務所・飯田教育事務所・伊那公民館・諏訪市教育委員会生涯学習課）

問い合わせ先 国立信州高遠青少年自然の家 電話0265-96-2527(担当 松村・藤森)  
「人権かるた」を年間通して複数回、事業等で活用いただける場合は、上の問い合わせ先へ相談してください。

## 創 作 劇 10年後の同級会

この劇(台本)は、20年ほど前に長野県内のある中学校において、同和問題について学習をしたのち、部落差別がなくなることを願って、中学生と担任の先生によって作られたものです。今回、啓発資料として利用できるように修正を加えています。

劇中の台詞ややりとり等で、気になる部分や共感できる場面について話し合うことを通して、人権感覚をさらに高めていただくことを願い作成しました。

読み合わせや朗読劇などに活用することもできます。

劇中の登場人物は仮名です。

【1 さゆり】 わー、久しぶりー。

【2 みほ】 本当に。

【3 かず子】 中学校卒業以来、10年ぶりね。

【4 たかし】 みんな変わったなあ。

【3 かず子】 さん、美人になったんじゃないの~?

【3 かず子】 失礼ね!そんなの昔からよ。

【5 ひとみ】 そうよ、そうよ~。

..... < 間 > .....

【6 みのる】 え~、おおよそみんな集まったようなので、そろそろ同級会を始めたいんだけど、その前にみんなに聞いてほしいことがあります。

じつは【7 正雄】には、『よう子』さんという彼女がいるんだけど.....。

【8 ゆうか】 え~、うそ~。

【9 とし男】 【7 正雄】 おまえ、知らないうちに、この~!

【10 太郎】 こいつ~、やったなあ~。

【11 つとむ】 おれもうかうかしてられないや。

【12 みすず】 おめでとう。

【13 まもる】 おめでとう。

【14 あき子】 おめでとう。

【15 ひとし】 結婚式に呼べよな。

【16 まなぶ】 おれ、司会やってやるぜ。

【6 みのる】 ちょっと、待ってよ。その結婚のことなんだけど。

【17 みき夫】 おい、何だよ。どうしたんだ?

【6 みのる】 じつは、ここに、困った問題がおこって、みんなに相談に乗ってもらいたくて.....。くわしくは本人から聞いてくれ。

【7 正雄】 みんな、今日は、せっかく同級会のところ悪いんだけど.....、おれは、結婚しようと思っている『よう子』さんにプロポーズしたんだ。その時、「わたし、被差別部落の出身なんだけど.....」って、打ち明けられたんだ。おれは「大事な問題だから一緒に考えていこう。心配しなくていいよ。」って答えた。その後、そのことを両親に相談したら、「絶対に駄目(だめ)だ。」と言われてしまった。おれは、どうすればいいか困ってしまい、【6 みのる】に相談を持ちかけたら.....。

【6 みのる】 それで、おれも、簡単に答えられることじゃないし、仲の良かった中学校の仲間聞いてみたらどうかと思って、ここに集まってもらったんだ。ぜひ、みんなの意見を聞かせてくれよ。

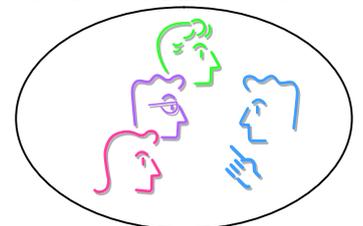
【18 かつや】 そうか~。そんなこと、急に言われても.....、困っちゃうなあ。難しい問題だなあ。

【19 まさと】 そうだよ~。自分にもわからないなあ。

..... < みんな困った顔 > .....

【20 勝彦】 どうなんだ、そんなに反対されているんか?

【7 正雄】 ああ。



【21 ぶみか】 でも、反対されても結婚したいんですよ!?

【7 正 雄】 うん。(うなずく)

【22 千 佳】 でも、親に反対されて結婚できるの?親の意見に従ったほうがいいんじゃない!?結婚って何かと親の力を借りなきゃならない時があるし、この際、親の言うとおりにしたら。

【23 あつし】 おれは、早く結婚して良かったよ。こんな問題にぶつからなくて。

【24 つよし】 そういやあ、おまえ早かったなあ。

【25 かおり】 何言ってるのよ、【23 あつし】さん!あなた、自分のことしか考えられないの。そんな人だったの!?

【23 あつし】 ごめん、ごめん。そんなつもりで言ったんじゃないんだ。

..... < 間 > .....

【26 みどり】 何とか、みんなで【7 正 雄】さんと『よう子』さんのために、力になってあげましょうよ。本当に好きなら、結婚するのが当然でしょう!被差別部落出身ということ、ぜんぜん関係ないわよ。

【27 順 子】 被差別部落出身だからだめだなんて、頭から決めつけて反対する親がおかしいのよ。本人たちの気持ちを一番大事に考えてあげるべきよ。

【28 あさこ】 親なんてのは、いつもまわりのことばかり気にして、勝手すぎるわよ。

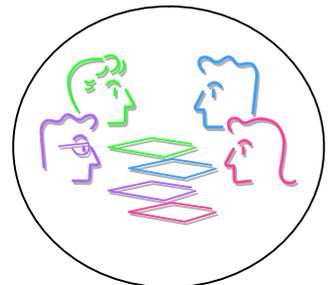
【4 たかし】 おいっ、わかったようなこと言うけど、おれたちだって親になった時どうできるかは、わかんないぜ。

【9 とし男】 むずかしいよな、結婚のことって。

【29 理 恵】 私はね~、相手の人が被差別部落出身であるということを気にするわけじゃないけど、やっぱり親や親戚(しんせき)に反対されると、考えちゃうかもね。

【19 まさと】 あきらめたほうがいいぜ。他にもいくらでもいい子、たくさんいるんだしさ。親に認めてもらえる人と結婚したほうがいいさ。

【1 さゆり】 ちょっと、今の言い方、何よ。聞き捨てならないわね!本気になって考えてるの?!



..... < みんな黙る > .....

【2 み ほ】 かまわないじゃない。結婚すべきよ。親や親戚なんて関係ないわよ。二人の問題よ。

【10 太 郎】 「差別をなくそう」と世の中では言うけれど、実際はなかなかむずかしいこともあると思う。でも、本当に二人だけでやっていけるんだったら、結婚しろよ。

【11 つとむ】 【7 正 雄】 そんなに反対されているんだったら、家を飛び出してでも結婚したらどうだ。本気なんだろう?

【3 かず子】 でも、無理して結婚すれば、家へ帰ることができなくなるわよ。結婚してからも何かと親の力を借りなきゃならない時があると思うけど、大丈夫なの?

..... < 【7 正 雄】 黙っている。みんな、目を向ける > .....

【13 まもる】 はっきりしろよ。お前は、打ち明けてくれた『よう子』さんの気持ちをしっかり受け止めて決めたんだらう?ちょっと反対されただけで、簡単にあきらめるのかよ?そんなやつだとは思わなかった。お~い、みんな、帰ろうぜ。こんなやつとつきあっている暇なんかないんだ。

【18 かつや】 ちょっ、ちょっと待てよ。結婚したいと思っているからみんなに相談をもちかけてるんだぜ。

..... < 間 > .....

【16 まなぶ】 本当にその人が好きなら結婚すべきだぜ。おれ、賛成するぜ。

【5 ひとみ】 そんなにかっこいいことばかり言わないでよ。私たちが二人の結婚に賛成するってことは、こ

れから二人が立ち向かわなければならぬ問題について、一緒に受け止めていく覚悟が必要よ。



..... < 問 > .....

【17 みき夫】 結婚は、二人が愛し合っていて、合意があればできるんだ。憲法にもあるじゃないか。

【15 ひとし】 被差別部落出身だから結婚を許さないって、どういうわけだ？親が反対するからできないってそんなバカな話があるかよ。自分が愛する人といっしょになるのが結婚じゃねえのかよ！それが幸せというもんだろうが。

【9 とし男】 そうだ、そうだ。おれもそう思う。

【29 理 恵】 でも、たとえ二人が幸せになったとしても、生まれてくる子どもが一番切ない思いをするんじゃない？親の反対を押し切って結婚したら、子どもがかわいそうよ。

【3 かず子】 子どもが、おじいちゃん、おばあちゃんに会えなくなるってこと？

【12 みすず】 それはおかしいわよ。【7 正 雄】 さんのご両親はそんなことを望んでいないでしょう？そんなおかしいこと、あってはならないわ。みんなが不幸になってしまう。だから、ご両親にはもう一度よく考えてもらいましょうよ。

【20 勝 彦】 おまえの両親の態度はひどすぎるぜ。結婚するのは、本人たちの意志だろうが。とんでもない話だ。

【23 あつし】 おれもそう思う。けど、なぜ【7 正 雄】の親は素直に二人を祝福してあげられないのかな？

【5 ひとみ】 本当は祝福してあげたいんだと思う。でも、別の心が、それをできなくしてしまっているのね。人間の心って難しいわね……。私思うんだけど……。親戚の人達は、みんながみんな反対なの？

【24 つよし】 そうだよなあ。そこをしっかりと確認しておくことは大事だよな。おまえ確かめたんか？

【7 正 雄】 .....

【21 ふみか】 何、黙ってるの？

【4 たかし】 おまえ、両親の猛反対があっても結婚するつもりなんだよな！？

【7 正 雄】 もちろんだよ。

【10 太 郎】 だったら、『よう子』さんの両親に応援してもらって、新しい生活を始めてはどうだ。そうすれば、【7 正 雄】のおやじさんやおふくろさんだって考え直すかもしれねえし。

【26 みどり】 そうよ。そうよ。私たちが盛大に祝福してあげるわよ。

【22 千 佳】 それは、いいけど……。でも……。現実、そう楽にはいかないんじゃない？私たちが考えているより大変なことだと思うわ。

【11 つとむ】 結局、おれたちがどうのこうの言っても、最後に決めるのは【7 正 雄】だけ。

..... < しばし沈黙 > .....

【27 順 子】 【7 正 雄】さん、ご両親がだめだと言っても、私たちがついてるから。

【15 ひとし】 だけど、結婚式でみんなに祝福してもらえるのはうれしいけど、俺だったら、親が出席しないのはたまらないよなあ。

【16 まなぶ】 親を何とか説得すべきだよ。何もしないで、二人だけの生活を選択したら、この問題から逃げることになるよ。

【13 まもる】 二人して逃げることで済むんだったら、同級会を開くまでもねえよ。そんな簡単な問題じゃねえよ。みんなで【7 正 雄】の家へ行って、親を説得しようぜ。なあみんな、どうだ！

..... < 一瞬、間があって、お互いに顔を見合わせて > .....

【 全 員 】 そうね。(女) そうだ~(男)

【28 あさこ】 けれど、今一番大切なのは、まず【7 正 雄】さんが、何時間でも何日でも、いろんな方法で両親を説得することだと思う。親戚の中には協力してくれる人もいるかもしれないじゃない。

【29 理 恵】 私・・・、ずっと迷っていたんだけど、みんなの考えを聞いて、二人を応援したいと強く思うようになった。【7 正 雄】さん、親に認めてもらえるように頑張るんだよ。

【17 みき夫】 ダメだと言われても、あきらめるなよ。おれたちがついているからさ。なあ、みんな!



..... < みんなうなずく > .....

【4 たかし】 【7 正 雄】 おまえ、その気持ちをしっかりと『よう子』さんに伝えるよ。そして両親を説得するんだ、結婚を認めてもらえるまで。

【30 よし子】 みんなも知っているでしょう。私は外国の人と結婚をしたわ。初めは認めてもらえなかったけど、ついに二人の仲を認めてくれたわ。今は、好きな人と一緒になって、本当に良かったと思っているわ。がんばってよ。

【24 つよし】 同じ人間だもの。いつまでも差別にとらわれているなんて、考えただけでもおかしいよ。差別がない明るい社会を、みんなで作っていかないとね。

【1 さゆり】 ねえ、中学校時代にクラスで、同和問題について勉強したじゃない。【7 正 雄】さんも、自分の意見をしっかり言ってたじゃないの。思い出してみて!あの時学んだことを。自信を持って、両親に言ってみるのよ。

【19 まさと】 自分も、中学校時代を思い出したよ。まず両親に、この問題を正しく理解してもらうことが大切だと思う。自分たちが中学校で勉強したことは何のためかという、こういう時に正しく行動できるために!だよな。うん、そうだ。

【20 勝 彦】 応援が必要な時は、いつでもみんなで親や親戚の人たちを説得してまわるからさ。

【18 かつや】 おれは、何があっても応援するぜ!がんばれよ!二人に愛があれば、どんな壁も乗り越えられるよ。

【6 みのる】 みんながこれだけ応援してくれるんだ。自信を持ってあたってみるよ。

【7 正 雄】 絶対、説得してみせるよ。時間がかかろうともがんばるよ。みんな、真剣に考えてくれて、今日は本当にありがとう。おれ、うれしかったよ。いざという時に相談に乗ってくれる友達がたくさんいてくれて、やっぱりこのクラスで良かったって、心から思うよ。



【6 みのる】 さあ、みんな、乾杯しようぜ~!!

【 全 員 】 お~!!

上の台本を活用したり、ビデオ「ドキュメンタリー・結婚」や「ドキュメンタリー・琴美の決意」などを視聴したりして、同和問題について、さらに自分の考えを深めましょう。



啓発ビデオ

「ドキュメンタリー・結婚」  
【平成 9年(1997年)作品】  
「ドキュメンタリー・琴美の決意」  
【平成 13年(2001年)作品】

企画：長野県同和教育推進協議会  
制作：信越放送(SBC)株式会社

お買い求めは、長野県同和教育推進協議会へ  
TEL 026(234)6907 FAX 026(234)3177

下の場所でも、啓発ビデオ、DVD等の貸し出しを行っています。ご利用ください。

- 東信 上小 地方事務所 地域政策課  
TEL(0268)25-7111
- 南信 上伊那地方事務所 地域政策課  
TEL(0265)76-6800
- 中信 松本 地方事務所 地域政策課  
TEL(0263)40-1902
- 北信 長野県人権啓発センター  
TEL(026)274-2306

(8)P 家庭の風景  
~三行詩の答え~

- A:みんなで食べたら
- B:「それは困る」
- C:「なんて、いつ言えるんだろう。」
- D:タオルがあった。

身近であった

# あんなこと こんなこと



はんしんふずい  
 半身不随の女性、花を生け終わり、切り落としたくずを片手に室内履きのまま不自由な片足を三和土に下ろしました。  
 その時、後ろから「おばあちゃん、猫みたい」と笑う声。悔し涙が・・・。

私は今まで普通の学校だけ廻ってきたんです。初めて・・・



ある日突然「さん」と名前を呼ぶようになった4才児。「じいじ」「ばあば」の本当の名前を知った日から、あたりまえのこととして続けている孫たち・・・。

「これもありがたか。悪くはないな。」とほくそ笑むじいじ、ばあば。

主任児童委員として小学校の音楽会に招待されました。来賓入り口の案内に沿って行くと、係の教員から「お母さん方の入り口はあちらです。」と案内されました。？・・・

「女のくせにこんな料理しかできないの？男の俺の方がよっぽどましなもの作れるよ。」



## こんな時あなたなら・・・どうしますか??

私はもめ事が大嫌い。面倒になりそうなことから極力逃げてきていました。

ある年の職場仲間の忘年会の後半、恒例の二次会でのことです。ほぼ出来上がった状態の中で突然、私の右隣にいた男性が向かいに座っていた新任の女性に向かって、「お前はバカだ。」「この職場に似合わない。すぐ辞めろ。」など、小バカにしたような雰囲気ですり始めました。最初は、「いいも～ん、どうせ私はバカだも～ん」と軽くあしらっていたその女性も、しばらくすると隣の席に座る人と歓談し、一切相手にしなくなりました。

座の雰囲気は当然のようにしらけ、私自身もかかわりを持ちたくない気持ちから、男性を避けるように身を左に向けていました。少し離れたところから徳利を片手に持った別の男性が近づき「まあまあ、今日はそんなこと言わないで飲みましょ。」と雰囲気を変えようとしていました。

その時、もう一人の男性が静かに立ち上がり、悪態をつく人に近づきました。肩を軽くたたき「おい、今何を言っているか分かるかい。今君のやっていることは言葉による暴力だよ。本心じゃあなくて酒が言わせたといいかもしれないがそうじゃない。酒によって押さえが利かなくなって、君の本心が顔を出したんだ。俺はこういうことが大嫌いだ。今すぐ謝るべきだ。謝らなければ、俺は提訴も辞さないぞ・・・。」

畳に手をつけて謝り、みんなより一足先に宴席を去った男性。

普段から酒癖が悪いといわれていた彼、その実態を目の当たりにした翌日、私の行動が変わりました。本人に昨夜のことを覚えているか尋ねたところ、まったく覚えていないことがわかりました。「あのタイショウは酒癖悪い」、周りの仲間にはよく知れ渡っているこのことが、当の本人には認識されていなく、ただ周囲の笑い種になっていただけでした。

この出来事を契機にして、日本酒を飲まなくなった彼。そして、逃げることは解決につながらないことを身をもって学んだ私です。

## 差別じゃないの？

老舗の時計店での店主のひと言。  
「外国人差別などしていないが、あのような見かけぬ国の人だけにしておくとは何をするか分からない。早く帰ってもらいなさい。」

## ほんの一言でも重い

母は、仕事から帰るなりカバンをそこに置くと夕食の準備に取りかかった。追っかけるように息子が帰ってきた。廊下から台所をちらっと見て、  
「たまには人間の食べるようなものを作ってよ。」と母にひと言。そして、テレビのスイッチを入れた。

## 立場で変わる??

吹雪の日、教員住宅へ速達の配達に……。  
寒風の中に立つ私には視線も向けず手紙を受け取り、無言で中へ消えた。たしか、秋の音楽会するとき、にこやかに議員の私にお茶を接待してくれた教師だった。

## キャスターの願い

現金自動支払機(ATM)を狙った事件が発生。ニュースキャスターは、自分の気持ちをひと言、  
「多発する事件、犯人が日本人でないことを願いたいですね。」

## Dr.の本音!?

ついに歩行困難になり病院へ……。最悪のことを考えながら運び込まれた。  
「こんな役に立たないものをためて……(ひざの水を抜きながら)この程度でこの病院へ来るから忙しくて困る。」Dr.は聞こえよがしにつぶやいた。

## 肩書きが語る?

「講演会をやると思うんだけど、講師の選定が今イチでね。いい話してくれる人がいるんだけど、どうもその方、肩書きがたいしたことなくて……。どうしよう。」

## 「君、さん」は私にとって

今までの職場では、「君(くん)」付けで呼ばれていました。この職場は、すべての方が「さん」付けで呼んでくださるのです。どちらも好きですけど、「さん」のほうは「一人前の人間」として扱われたようで、背筋がピンと伸びる感じです。

## 苦しい担任

「いくら耳が聞こえなくなっても、このくらいのことは常識だよ。もう何歳だと思ってるの？」普通学級で、難聴児を担当する担任。さらにひと言、  
「赤ちゃんじゃあるまいに……。」とぼやく。

## バッヂは輝く

「おれはこういうものだ。触らせろ。」胸のバッヂを指しながらくり返す。  
そして、ある日には「そのような立場でそんなことおっしゃってもいいんですか？」の言葉に、  
「今日はバッヂを外して来た。」とかわした。

## 私たちは少数派

薄暗くなる頃、ある方の家の玄関に立ち、チャイムを鳴らしました。中から「明かりを点けなくては見えないんじゃない?」「そんな時間だね。」というご夫婦の会話が聞こえました。お二人は盲学校の同級生です。

## &lt;解説&gt;

身近な生活の中で「えっ?」と思ったことはありませんか。上記の事例は、そんな「えっ?」を集めたものの一部です。身の回りを注意深く見回すと、残念ながら相手の立場に立てない人、偏見を持っている人、権力や肩書きをふりかざす人などが存在すると言うことですね。ぜひ、これらの事例を参考にいただき、職場、学校、地域など機会を捉えて、足もとの人権について考えてみてください。世の中にたくさんの人権課題がありますが、その根は意外と身近なところにあるのではないのでしょうか。

# あなたならどうしますか？ 喪中欠礼

年賀の喪中欠礼状を出すことになった。妻の弟が若くして逝った。何ともやりきれない。欠礼状を印刷屋さんをお願いする段になると、葉書きのレイアウトを考えなければならぬ。

喪中につき年末年始のご挨拶を・・・今年十二月に  
いたしました。ここに本年中に賜りましたご厚情を・・・  
が永眠

さあ、この [ ] の部分で故人をどう書き表すのか。

弟 (故人の氏名) と書けばすっきりしている。差出人は私たち夫婦の連名にするが、私たちの苗字の下に妻の名前、私の名前は左に書けば良いと思った。ところが、妻は「そんなのヘン」と言っ。夫が「主」で妻はその傍らに寄り添っている方がよいのか？ 普段の生活はそうやってはいないのは明らかなのに・・・しづしが私が譲歩した。苗字の下に私の名前、行を変えて私の名前の左側に妻の名前

となると、今度は、弟 [ ] では済まなくなる。故人は妻の弟なのだから。嫌な予感したが、印刷屋さんへ聞くと、「そういつときは、義弟」とするのが普通ですよ。」とアドバイスしてくださった。やっぱりそうか。義弟か?!?! 私ほそれだけは勘弁だった。差出人を私の名前を先にしてまで、「義弟」を使うなんて。亡くなったのは、妻にとってかけがえのない弟なのに・・・

喪中はがきの書き方についてたくさん解説が出ている。よく読むと、「マナー」といながら、解説者によって言っていることが少しずつ違っている。「こ書くのはマナー違反です」と書きながら、「大切なのは気持ちです」とも書かれている。「欠礼状を出す」と「自分が本当はおかしい」といふものもある。皆がしているから、昔からそう言われているから、と思って行動する自分をまた見つけた。さて、どんな欠礼状にしようか。

# 家庭の風景

〜三行詩から考える〜

次に紹介する四つの詩は、『たのしい子育て全国キャンペーン2007』（家庭の風景 三行詩と写真）で入選した作品です。

それぞれの詩の中には、どんな言葉が入るでしょうか。考えてみましょう。

小学生の部

『いちそう』

じいちゃんの米は

「うまいー」

ばあちゃんのやさいも

「うまいー」

A [ ]

「すっくすっくうまいー」

小学生の部

『タロの死』

犬のタロが死んだ。

みんなでうめた。

悲しかった。

「ほくもいつかいくからね」と言った。

おかあさんが B [ ]

と言った。

中学生の部

お父さん、お母さん

「育ててくれてありがとう」

C [ ]

中学生の部

雨降って

帰ってきたら

D [ ]

『たのしい子育て全国キャンペーン2007』

家庭の風景／三行詩と写真（日本PTA全国協議会）より

答えは(5)ページ右下にあります。